

安全データシート

作成日 2006 年 07 月 01 日
改訂日 2025 年 04 月 04 日

1 製品及び会社情報

製品名称 DIACREATIVE Triple power 420ml

発売元 会社名 株式会社 新ダイヤクリエイティブ
住所 〒108-0023 東京都港区芝浦2-13-6-608
電話番号 03-3769-5612
FAX番号 03-3769-9167
担当者 営業部 石原一徳
e-mail toiawase@shindia.co.jp

推奨用途及び使用上の制限 業務用
浸透性を重視した耐極圧・潤滑スプレー
クリアランスが少ない、錆び付いて動かない等の各種機械、機器類に最適。
機械・機器及び部品の騒音防止、振動の軽減、発熱の抑制、極圧下での潤滑作用をもち、部品寿命の延長を図る
ブレーキ等の摩擦を必要とする部分へは使用不可
食品に接触する部分には使用不可

2 危険有害性の要約

GHS分類、ラベル要素

物理化学的危険性	可燃性・引火性エアゾール	区分	1
健康に対する有害性	皮膚腐食性・刺激性	区分	1
	発がん性	区分外	
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分	3（麻酔作用）
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分	3
	水生環境慢性有害性	区分	3

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
高圧容器:熱すると破裂のおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
発がんのおそれ
眠気又はめまいのおそれ
水生生物に有害
長期継続的影響によって水生生物に有害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
高圧の引火性ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険性がある。
燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。
燃えやすいガスが入っている。ガスが滞留すると爆発の恐れがある。

物理的及び化学的危険性

3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
成分及び含有量

混合物

成分名	CAS No.	含有率 (質量%)		化審法番号
鉱油	72623-86-0	50	～ 55 質量%	-
潤滑油添加剤	特定できない	3	～ 5 質量%	-
塩素化パラフィン	85049-26-9	1	～ 10 質量%	-
n-ブテン	106-97-8	10	～ 20 質量%	2-4
プロパン	74-98-6	10	～ 20 質量%	2-3
イソブタン	75-28-5	1	～ 10 質量%	2-4

注記 : これらの値は、製品規格値ではありません。
労働安全衛生法・化学物質管理促進(PRTR)法該当成分については、「15.適用法令」を参照下さい。

4 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、体を毛布等で覆い暖かくし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。
溶剤、シンナーを使用してはならない。
直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。

眼に入った場合

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときは医師の診断を受ける。
水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
無理に吐かせないこと。
嘔吐物を飲み込ませてはならない。
医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。
直ちに医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。
救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
適切な換気を確保する。

5 火災時の措置

適切な消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。

消火を行う者への勧告
特有の消火方法

高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
消火活動は風上より行う。
可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
エアゾール製品の場合、高温で破裂する恐れがあるため、消火活動は距離を十分に取る。
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性着衣など)を着用する。

消火を行う者の保護

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護
具および緊急措置
環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化方法・機材

作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
河川への排出等により、環境への影響を起さないように注意する。
漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。

二次災害の防止策

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	(取扱者のばく露防止) (火災・爆発の防止)	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。 容器を接地しアースをとること。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
安全取扱注意事項		全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋及び保護面を着用すること。 保護眼鏡/保護面を着用すること。 指定された個人用保護具を使用すること。
適切な保管条件		配合禁忌等、安全な保管条件 換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと。 涼しいところに置くこと。
避けるべき保管条件		施設して保管すること。 日光から遮断すること。 温度が40℃以上のところで保管しない。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度及び許容濃度	未設定
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
(n-ブタン)	日本産衛学会(1988)500ppm; 1200mg/m ³
(鉱油)	日本産衛学会(1977)3mg/m ³ (鉱油ミストとして)
(イソブタン)	日本産衛学会(1988)500ppm; 1200mg/m ³
(n-ブタン)	ACGIH(2012)STEL: 1000ppm (中枢神経系障害)
(鉱油)	ACGIH(2009)TWA: 可能な限り低く(L)(上気道刺激)
(プロパン)	ACGIH: 窒息性
(イソブタン)	ACGIH(2012)STEL: 1000ppm (中枢神経系障害)
設備対策	適切な換気のある場所で取扱う。 排気/換気設備を設ける。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具 呼吸器保護具を着用すること。 保護手袋を着用すること。 眼の保護具を着用すること。 保護衣を着用すること。

9 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态	« 原液 »	形状	液体
		色	褐色不透明
		臭い	溶剤臭
		引火点 (COC)	102 °C以上
		比重 (密度)	0.88 g/cm ³
		動粘度 40℃	9.59 mm ² /s
		100℃	2.74 mm ² /s
物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲			
		初留点/沸点	: (プロパン)-42 °C
		引火点	: (プロパン)-104 °C
		自然発火温度	: (n-ブタン)365 °C
		爆発特性: 引火又は爆発範囲	
			: 下限:1.8 vol%
			: 上限:9.5 vol%
		比重/密度	: 0.69-0.73g/cm ³

10 安定性及び反応性

化学的安定性
危険有害反応可能性
避けるべき条件
混触危険物質
危険有害な分解生成物

エアゾール製品の場合40℃以上になると缶が破裂する恐れがある。
酸化性物質等と触れると反応する危険性がある。
加熱、スパーク、裸火、及びその他の発火源は避ける。
酸化性物質
燃焼により、一酸化炭素、窒素酸化物、その他低分子モノマーなどの有害ガスが発生する。

11 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

経口 (鉱油)
経皮 (鉱油)

吸入 (鉱油)

(イソブタン)

ラットのLD50値 > 5000 mg/kg〔IUCLID(2000)〕より、区分外とした。
ラットのLD50値 > 2000 mg/kg〔IUCLID(2000)〕より、JIS分類基準の区分外（国連分類基準の区分5または区分外）とした。
mist : ラットのLC50値 2.18 mg/L〔IUCLID(2000)〕より、区分4とした。なお、平均分子量290、沸点241℃よりミストと推定される。
gas : mouse LC50 = 11000 ppm/4hr (ACGIH,2004)

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

(鉱油)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

発がん性 (鉱油)

ラビット Draize Test : 中等度の刺激性 (IUCLID,2000)

使用されている基油は、高度精製基油(IP346法によるDMSO抽出物量3%未満)であり、IARCでは、グループ3(ヒトに対して発がん性について分類できない)に分類され、ACGIHでもほぼ同様の分類がなされている。EUによる評価では発がん性物質としての分類は適用される必要はない。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

特定標的臓器毒性

特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)

[区分2]

[区分3 (麻酔作用)]

(鉱油) 肺,皮膚
(イソブタン) 心臓
(プロパン) 麻酔作用
(イソブタン) 麻酔作用
(n-ブタン) 麻酔作用

12 環境影響情報

水溶解度 (鉱油)
(プロパン)
(イソブタン)
(n-ブタン)
生体蓄積性 (プロパン)
(イソブタン)
(n-ブタン)

その他情報

溶けない (ICSC,1998)
0.007 g/100 ml (20 C) (ICSC,2003)
溶けない (ICSC,1998)
0.0061 g/100 ml (20 C) (ICSC,2003)
log Pow = 2.36 (ICSC,2003)
log Pow = 2.8 (ICSC,1998)
log Pow = 2.89 (ICSC,2003)

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

エアゾール製品の場合は、焼却処理を行わないこと。

エアゾール製品の場合は、中身を完全に使い切り、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜いてから捨てる。

中身の入ったものは絶対に廃棄しない。

ガスを抜く際には、火気及びミストの吸入などについて注意すること。

14 輸送上の注意

国連番号、国連分類	
国連番号	1950
国連名	エアゾール、可燃性 (AEROSOLS, FLAMMABLE)
国連分類	
(輸送における危険有害性ランク)	CLASS 2.1
指針番号	126
	特別規定番号 : 63; 190; 277; 327; 344; A145; A167; A802

15 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法 (平成29年政令第218号) まで	
名称表示 : 危険 / 有害物	
イソブタン/n-ブタン	施行令第18条 (2016年6月1日改正対応)
別表第1 : 危険物	
(第1条、第6条、第15条関係)	危険物・可燃性のガス 施行令別表第1第5号
名称通知 : 危険 / 有害物	
鉱油/イソブタン/n-ブタン	法第57条の2、施行令第18条の2別表第9 (2016年6月1日改正対応)
化審法	
第一種指定化学物質	該当しない
第二種指定化学物質	該当しない
消防法	消防法第2条 危険物、第四類第3石油類 潤滑油 危険等級Ⅲ 420ml
高圧ガス保安法	このエアゾール製品は容器内容積が1リットル以下、及び35°Cにおいて圧力は0.8 MPa以下のため高圧ガス保安法の適用除外となります。
PRTR法	該当しない
船舶安全法	船舶による危険物の運送基準を定める告示 エアゾール (容量 1 L 未満) ガス類引火性ガス 分類2 区分2.1
航空法	航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示 高圧ガス 引火性ガス 分類2 区分2.1
水質汚濁防止法	鉱油 1日当たり平均的排水量50m ³ 以上の特定事業場に適用される排水基準生活環境項目
毒劇物取締法	対象物質でない

16 その他の情報

主な引用文献	Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed.,2013),UN Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit.,2013 UN Classification,labelling and packaging of substances and mixtures (table3-I ECN06182012) 2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT) 2015 TLVs and BEIs. (ACGIH) http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php JIS Z 7253 : 2012 2015許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会) Supplier's data/information
--------	--

安全データシートに記載内容は、作成時に入手できる資料・情報・データに基づいて作成しており、通常の取り扱いを対象とした参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、自らの責任において、用途・用法に適した安全対策を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願い致します。従って、本データシートそのものは、含有量・物理化学的性質・危険・有害性などのいかなる保証をするものではありません。また、この情報は新しい知見を入手した場合、追加または改訂されることがあります。

安全データシート

作成日 2006 年 07 月 01 日
改訂日 2025 年 04 月 04 日

1 製品及び会社情報

化学物質等の名称（製品名）		DIACREATIVE LUBEXEL-E SPRAY (ルベクセルE スプレー)	420ml
発売元	会社名 住所 電話番号 FAX番号 担当者 e-mail	株式会社 新ダイヤクリエイティブ 〒108-0023 東京都港区芝浦2-13-6-608 03-3769-5612 03-3769-9167 営業部 石原一徳 toiawase@shindia.co.jp	
推奨用途及び使用上の制限	業務用 各種機械、機器類の極圧・潤滑用スプレー式潤滑剤 極圧がかかる、潤滑性を長持ちさせたい箇所に最適。 機械・機器及び部品の騒音防止、振動の軽減、発熱の抑制、極圧下での潤滑作用をもち、部品寿命の延長を図る ブレーキ等の摩擦を必要とする部分へは使用不可 食品に接触する部分には使用不可		

2 危険有害性の要約

GHS分類			
物理化学的危険性	可燃性・引火性エアゾール	区分	1
健康に対する有害性	皮膚腐食性・刺激性	区分	1
	発がん性	区分外	
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分	3（麻酔作用）
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分	2
	水生環境慢性有害性	区分	2

ラベル要素			
絵表示又はシンボル			
注意喚起語	危険		
危険有害性情報	極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール 高圧容器:熱すると破裂のおそれ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 眠気又はめまいのおそれ 長期継続的影響によって水生生物に毒性		
物理的及び化学的危険性	高圧の引火性ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険性がある。 燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。 燃えやすいガスが入っている。ガスが滞留すると爆発の恐れがある。		

3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
成分及び含有量

混合物

化学物質名	CAS No.	含有量(質量%)	安衛法 (政令番号)	化審法番号 (種別/管理番号)
潤滑油基油 (石油系炭化水素：鉱油)	特定できない	40 ～ 50	第9-168号	対象外
潤滑油添加剤：鉱油	特定できない	25 ～ 35	対象外	対象外
イソブタン	75-28-5	1 ～ 5	対象外	2-4
プロパン	74-98-6	2 ～ 6	対象外	2-3
n-ブタン	106-97-8	3 ～ 7	対象外	2-4

これらの値は、製品規格値ではありません。
鉱油含有物質は、下記の内の1個または複数個のCAS（化学物）番号がなされる場合がある。
64742-54-7,64742-65-0,64742-55-8,64742-56-9
労働安全衛生法・化学物質管理促進（PRTR）法該当成分については、「15.適用法令」を参照下さい。

4 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、体を毛布等で覆い暖かくし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚(又は髪)に付着した場合	付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。 溶剤、シンナーを使用してはならない。 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	無理に吐かせないこと。 嘔吐物を飲み込ませてはならない。 医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。 適切な換気を確保する。
応急措置をする者の保護	

5 火災時の措置

適切な消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。
消火を行う者への勧告 特有の消火方法	高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。 消火活動は風上より行う。 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。 エアゾール製品の場合、高温で破裂する恐れがあるため、消火活動は距離を十分に取る。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性着衣など）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化方法・機材	河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。 漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
二次災害の防止策	着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。 付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い		
技術的対策	(取扱者のばく露防止) (火災・爆発の防止)	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。 容器を接地しアースをとること。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
安全取扱注意事項		全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋及び保護面を着用すること。 保護眼鏡/保護面を着用すること。 指定された個人用保護具を使用すること。
適切な保管条件		配合禁忌等、安全な保管条件 換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと。 涼しいところに置くこと。
避けるべき保管条件		施錠して保管すること。 日光から遮断すること。 温度が40℃以上のところで保管しない。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度及び許容濃度		未設定
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)		
(n-ブタン)		日本産衛学会(1988)500ppm; 1200mg/m ³
(鉱油)		日本産衛学会(1977)3mg/m ³ (鉱油ミストとして)
(イソブタン)		日本産衛学会(1988)500ppm; 1200mg/m ³
(n-ブタン)		ACGIH(2012)STEL: 1000ppm (中枢神経系障害)
(鉱油)		ACGIH(2009)TWA: 可能な限り低く(L)(上気道刺激)
(プロパン)		ACGIH: 窒息性
(イソブタン)		ACGIH(2012)STEL: 1000ppm (中枢神経系障害)
設備対策		適切な換気のある場所で取扱う。 排気/換気設備を設ける。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	呼吸器の保護具	呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	保護衣を着用すること。

9 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状態	« 原液 »	形状	液体
		色	褐色不透明
		臭い	溶剤臭
引火点	(COC)		170℃以上
比重 (密度)			0.9 g/cm ³
動粘度	40℃		77.14 mm ² /s
	100℃		10.49 mm ² /s
pH			7.61
物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲			
	初留点/沸点	:	(プロパン)-42℃
	引火点	:	(プロパン)-104℃
	自然発火温度	:	(n-ブタン)365℃
	爆発特性: 引火又は爆発範囲	:	
		:	下限: 1.8 vol%
		:	上限: 9.5 vol%
	比重/密度	:	0.69-0.73g/cm ³

10 安定性及び反応性

化学的安定性	エアゾール製品の場合40℃以上になると缶が破裂する恐れがある。
危険有害反応可能性	酸化性物質等と触れると反応する危険性がある。
避けるべき条件	加熱、スパーク、裸火、及びその他の発火源は避ける。
混触危険物質	酸化性物質
危険有害な分解生成物	燃焼により、一酸化炭素、窒素酸化物、その他低分子モノマーなどの有害ガスが発生する。

11 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

経口 (鉱油)

経皮 (鉱油)

吸入 (鉱油)

(イソブタン)

ラットのLD50値 > 5000 mg/kg〔IUCILID(2000)〕より、区分外とした。

ラットのLD50値 > 2000 mg/kg〔IUCILID(2000)〕より、JIS分類基準の区分外（国連分類基準の区分5または区分外）とした。

mist : ラットのLC50値 2.18 mg/L〔IUCILID(2000)〕より、区分4とした。なお、平均分子量290、沸点241℃よりミストと推定される。

gas : mouse LC50=11000 ppm/4hr (ACGIH,2004)

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

(鉱油)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

発がん性 (鉱油)

ラビット Draize Test : 中等度の刺激性 (IUCILID,2000)

使用されている基油は、高度精製基油(IP346法によるDMSO抽出物量3%未満)であり、IARCでは、グループ3(ヒトに対して発がん性について分類できない)に分類され、ACGIHでもほぼ同様の分類がなされている。EUによる評価では発がん性物質としての分類は適用される必要はない。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

特定標的臓器毒性

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）

[区分2]

(鉱油)

肺,皮膚

[区分3（麻酔作用）]

(イソブタン)

心臓

(プロパン)

麻酔作用

(イソブタン)

麻酔作用

(n-ブタン)

麻酔作用

12 環境影響情報

水溶解度 (鉱油)

(プロパン)

(イソブタン)

(n-ブタン)

生体蓄積性

(プロパン)

(イソブタン)

(n-ブタン)

その他情報

溶けない (ICSC,1998)

0.007 g/100 ml (20℃) (ICSC,2003)

溶けない (ICSC,1998)

0.0061 g/100 ml (20℃) (ICSC,2003)

log Pow = 2.36 (ICSC,2003)

log Pow = 2.8 (ICSC,1998)

log Pow = 2.89 (ICSC,2003)

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。

特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

エアゾール製品の場合は、焼却処理を行わないこと。

エアゾール製品の場合は、中身を完全に使い切り、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜いてから捨てる。

中身の入ったものは絶対に廃棄しない。

ガスを抜く際には、火気及びミストの吸入などについて注意すること。

14 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号

1950

国連名

エアゾール、可燃性 (AEROSOLS, FLAMMABLE)

国連分類

(輸送における危険有害性ランク)

CLASS 2.1

指針番号

126

特別規定番号 : 63; 190; 277; 327; 344; A145; A167; A802

15 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法 (平成29年政令第218号) まで	
名称表示：危険 / 有害物	
イソブタン/n-ブタン	施行令第18条 (2016年6月1日改正対応)
別表第1：危険物	
(第1条、第6条、第15条関係)	危険物・可燃性のガス 施行令別表第1第5号
名称通知：危険 / 有害物	
鉱油/イソブタン/n-ブタン	法第57条の2、施行令第18条の2別表第9 (2016年6月1日改正対応)
化審法	
第一種指定化学物質	該当しない
第二種指定化学物質	該当しない
消防法	消防法第2条 危険物、第四類第3石油類 潤滑油 危険等級Ⅲ 420ml
高圧ガス保安法	このエアゾール製品は容器内容積が1リットル以下、及び35℃において圧力は0.8 MPa以下のため高圧ガス保安法の適用除外となります。
PRTR法	該当しない
船舶安全法	船舶による危険物の運送基準を定める告示 エアゾール(容量1 L未満) ガス類引火性ガス 分類2 区分2.1
航空法	航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示 高圧ガス 引火性ガス 分類2 区分2.1
水質汚濁防止法	鉱油 1日当たり平均的排水量50m ³ 以上の特定事業場に適用される排水基準生活環境項目
毒劇物取締法	対象物質でない
RoHS 2 対象物質	含有なし
ELV 対象物質	含有なし
REACH SVHC	含有なし

16 その他の情報

主な引用文献	Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed.,2013), U N Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 1 8 th edit.,2013 UN Classification,labelling and packaging of substances and mixtures (table3-I ECN06182012) 2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT) 2015 TLVs and BEIs. (ACGIH) http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php JIS Z 7253 : 2012 2015許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会) Supplier's data / information
--------	--

安全データシートに記載内容は、作成時に入手できる資料・情報・データに基づいて作成しており、通常の取り扱いを対象とした参考情報として、取り扱い事業者提供されるものです。取り扱い事業者は、自らの責任において、用途・用法に適した安全対策を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願い致します。従って、本データシートそのものは、含有量・物理化学的性質・危険・有害性などのいかなる保証をするものではありません。また、この情報は新しい知見を入手した場合、追加または改訂されることがあります。

安全データシート

作成日 2006 年 07 月 01 日
改訂日 2024 年 03 月 18 日

1 製品及び会社情報

化学物質等の名称（製品名）

DIACREATIVE

HIGH POWER EP GREASE No.2

400g

16Kg

発売元

会社名

株式会社 新ダイヤクリエティブ

住所

〒108-0014 東京都港区芝 4-7-7 ビラアベックス田町10F

電話番号

03-3769-5612

FAX番号

03-3769-9167

担当者

営業部 石原一徳

e-mail

toiawase@shindia.co.jp

推奨用途及び使用上の制限

業務用

特殊極圧グリース

ベアリング、各種ピンなど潤滑作用を長持ちさせたい、或いは、機械・機器類の延命を図るのに最適
ブレーキ等の摩擦を必要とする部分へは使用不可

2 危険有害性の要約

特有の危険有害性

消防法の危険物に該当しない

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体

区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口）

区分外

急性毒性（経皮）

区分外

急性毒性（吸入：ガス）

分類対象外

急性毒性（吸入：蒸気）

区分外

急性毒性（吸入：粉じん・ミスト）

区分外

皮膚腐食性・刺激性

区分3

（注意喚起語：警告）

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

区分2

（シンボル：感嘆符、注意喚起語：警告）

呼吸器感作性

区分外

皮膚感作性

区分外

生殖細胞変異原性

区分外

発がん性

区分外

生殖毒性

区分外

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

区分外

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

区分外

誤えん有害性

区分外

環境に対する有害性

水生環境急性有害性

区分外

水生環境慢性有害性

区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

皮膚に接触すると軽い皮膚刺激のおそれ。

目に入ると炎症を起こす恐れがある。

3 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
化学名又は一般名
成分及び含有量

混合物
Lubricating Grease

潤滑油基油 (精製鉱油)		90	～	98	質量%	労安法通知対象物質 (鉱油)
増ちょう剤 (リチウム石けん基)		1	～	14	質量%	労安法通知対象物質 (鉱油)
塩素化パラフィン	85049-26-9	1	～	3	質量%	

(ジアルキルジオリン酸亜鉛 5 質量%以下)

注記 : これらの値は、製品規格値ではありません。

特定できない

該当しない

該当しない

第57条 表示対象物 鉱油

第57条の2 通知対象物 鉱油 90～98質量%

該当しない

化学特性 (化学式)

国連分類及び国連番号

危険有害成分

化学物質管理促進法

労働安全衛生法

労働安全衛生法

毒物劇物取締法

4 応急措置

皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。

眼に入った場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワー等で洗 また、多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。
清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続
けた後、医師の診断・手当てを受ける。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、体を毛布等で覆い暖かくし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
必要なら医師に連絡し手当てを受けること。
呼吸が止まっている場合、及び呼吸が弱い場合には、衣類を緩め、呼吸気道を確保したうえで人工呼吸を行う。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないで医師の手当てを受ける。
口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。
誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起
こし、致命的となることがある。

応急措置をする者の注意事項

現在のところ有用な情報なし。

医師に対する特別な注意事項

現在のところ有用な情報なし。

5 火災時の措置

適切な消火剤

初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。

使ってはならない消火剤
火災時の特定危険有害性

棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
高温の金属表面等に接触した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。
燃焼の際は、二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、硫化水素、金属酸化物、塩化水素ガス、有毒
ガス、ヒューム等が生成される可能性あり。

特定の消火方法

火元への燃焼源を断つ。
周囲の設備等に散水して冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護

消火作業を行う者は、空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏及び有害ガスから身を守ること。
消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置
環境に対する注意事項

消火用器材を準備する。作業の際には適切な保護具 (手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等) を着用する。
下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。
海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近
づく場合は蒸気の拡散状況を把握し (風向、風速、ガス濃度等) 安全を確認する。薬剤を用いる場合には、運輸省令で
定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

封じ込め及び浄化方法・機材

速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。
大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。

二次災害の防止策

漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。
静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を使用する。
皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。
食べない。
機械設備等を修理または加工する場合は、安全な場所において完全に除去してから行う。
ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。
容器は、必ず密閉する。

安全取扱注意事項

石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気及び火気などへの注意が必要である。
換気装置を付ける場合は、防爆タイプを用いる。
常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意する。
直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管する。
熱、スパーク、火災並びに静電気蓄積を避ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。
容器に圧力をかけない。
容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

適切な保管条件

避けるべき保管条件

8 ばく露防止及び保護措置

設備対策

管理濃度

許容濃度

保護具

呼吸器の保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

適切な衛生対策

ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
設定されていない（作業環境評価基準：労働省告示第186号、平成29年4月27日）
日本産業衛生学会（2017年度版） 3 mg／m³（鉱油ミストとして）
ACGIH（2006年度版） 時間荷重平均（TWA）値 5 mg／m³（鉱油ミストとして）
通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。
長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
長期にわたり取り扱う場合または触れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する
汚れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状

色

臭い

石けん基 + 増ちょう剤

外 観

ちよう度 25℃混和

滴 点 ℃

引火点

比重（密度）

銅板腐食

蒸発量

離油度

酸化安定度

混和安定度

含水シロロールテスト

チムケン式耐加重性能

低温トルク試験

半固体

淡褐色

溶剤臭

リチウム + DIA-LUBEX

淡黄色軟膏状

283

197

200 ℃以上

0.88 ～ 0.94 g/cm³

1a

0.21

1.8

0.15

329

362

45以上

39.0

8.3

10 安定性及び反応性

安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。
強酸化剤。

危険有害な分解生成物

燃焼の際は、二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、硫化水素、金属酸化物、塩化水素ガス、有毒ガス、ヒューム等が生成される可能性あり。

11 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値 > 5000 mg/kg〔IUCLID(2000)〕より、区分外とした。

経皮

ラットのLD50値 > 2000 mg/kg〔IUCLID(2000)〕より、JIS分類基準の区分外（国連分類基準の区分5または区分外）とした。

吸入

混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

皮膚腐食性・刺激性

区分2に分類された物質を1%以上含有するため、混合物の分類に基づき、区分3に分類した。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

区分1に分類された物質を1%以上含有するため、混合物の分類に基づき、区分2に分類した。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

皮膚感作性

ビューラーテスト（モルモット）により皮膚感作性なしとの結果である。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

生殖細胞変異原性

広範囲な変異原性試験（in vivo 及び in vitro）が実施されているが、大部分の結果から、変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

発がん性

使用されている基油は、高度精製基油(IP346法によるDMSO抽出物量3%未満)であり、IARCでは、グループ3(ヒトに対して発がん性について分類できない)に分類され、ACGIHでもほぼ同様の分類がなされている。EUによる評価では発がん性物質としての分類は適用される必要はない。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

生殖毒性

ラットによる発育毒性及び生殖毒性試験から得られた知見により、これら毒性示す結果は得られておらず、生殖毒性なしと判断する。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）

急性試験による各種特定臓器への単回ばく露毒性は認められていない。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）

経皮及び吸入投与による4週間から2年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。従って混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

吸引性呼吸器有害性

炭化水素を10%以上含有するが、危険有害性区分の判定基準である40℃で測定した場合の動粘性率が20.5 mPa/s以下の混合物に該当しない。

12 環境影響情報

水生環境急性有害性

混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

水生環境慢性有害性

混合物の分類に基づき分類し、区分外とした。

生体毒性

現在のところ有用な情報なし

残留性・分解性

現在のところ有用な情報なし

生体蓄積性

現在のところ有用な情報なし

土壤中の移動性

現在のところ有用な情報なし

オゾン層への有害性

現在のところ有用な情報なし

13 廃棄上の注意

事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

投棄禁止

埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃え殻については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人を付ける。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

国連名

該当しない

国連分類

該当しない

容器等級

該当しない

国連番号

該当しない

国内規制

陸上規制情報

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

海上規制情報

船舶安全法 非危険物 個別運送およびばら積み運送に於いて

航空規制情報

航空法 危険物に該当しない。

特別安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

陸上輸送の場合、運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。

第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。

その他関係法令の定めるところに従う。

15 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	
表示対象物質	あり
通知対象物質	あり
化審法	
第一種指定化学物質	該当しない
第二種指定化学物質	該当しない
海洋汚染防止法	油分排出規制（原則禁止）
下水道法	鉱油類排出規制（5 mg/L）
水質汚濁防止法	油分排出規制（5 mg/L 許容濃度） ノルマルヘキサン抽出分として検出される。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規則（拡散、流出の禁止）
RoHS 2 対象物質	含有なし
ELV 対象物質	含有なし
REACH SVHC	含有なし

16 その他の情報

主な引用文献	許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会（2017） 米国産業衛生専門家会議（ACGIH） "TLVs and BEIs 2006"（2006）
--------	--

安全データシートに記載内容は、作成時に入手できる資料・情報・データに基づいて作成しており、通常の取り扱いを対象とした参考情報として、取り扱う事業者には提供されるものです。取り扱う事業者は、自らの責任において、用途・用法に適した安全対策を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願い致します。従って、本データシートそのものは、含有量・物理化学的性質・危険・有害性などのいかなる保証をするものではありません。また、この情報は新しい知見を入手した場合、追加または改訂されることがあります。